

研究課題名	潰瘍性大腸炎患者に発生した大腸腫瘍の臨床病理学的特徴に関する研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学 教授 岡 志郎
研究期間	実施許可日～2026年3月31日
対象者	1999年8月から2022年12月の間に、広島大学病院で大腸内視鏡検査を施行された潰瘍性大腸炎患者さんの中で、大腸腫瘍が発生した患者さん。
意義・目的	<p>潰瘍性大腸炎は原因不明の大腸炎を起こす難病ですが、長期罹患例では大腸癌を合併するリスクが高いことが知られています。潰瘍性大腸炎患者において大腸癌は生命予後を規定する重要な合併症であり、潰瘍性大腸炎関連腫瘍の早期の診断・治療等の管理が重要です。潰瘍性大腸炎患者さんには潰瘍性大腸炎関連腫瘍だけでなく散発性大腸腫瘍も発生し、両者の鑑別が治療方針決定の上で非常に重要です。</p> <p>本研究では、潰瘍性大腸炎患者さんに発生した大腸腫瘍を発生部位（潰瘍性大腸炎罹患範囲内/外）や病理組織像により潰瘍性大腸炎関連腫瘍と散発性腫瘍に分類し、その臨床病理学的特徴について検討します。それにより、今後の潰瘍性大腸炎関連腫瘍と散発性腫瘍の鑑別や治療方針の決定に役立つことが予測されます。</p>
方法	本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。カルテから使用する内容は、性別、年齢、潰瘍性大腸炎の経過、内視鏡所見、治療方法、病理学的所見、予後などです。なお、個人を特定可能な情報は解析に用いません。
共同研究機関	なし
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科消化器内科学 教授 岡 志郎
個人情報保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5939

広島大学大学院医系科学研究科(医学)消化器内科学 教授 岡 志郎